

## 1 小学校外国語活動のカリキュラム作りに関わる考え方

カリキュラム作りを行う前提として、次の4点をふまえることを確認した。

- ①「英語ノート」の学習内容に沿ったカリキュラム
- ②担任が一人で行えるカリキュラム
- ③1時間の授業の流れをある程度同じとする。
- ④学習活動の種類を分類する。

### ①「英語ノート」の学習内容に沿ったカリキュラム

多くの学校では、「英語ノート」をもとにしてカリキュラム作りが行われている。現段階では各小学校で外国語活動に関する様々な情報や資料が必要とされている状態である。お互いに共通の基盤で授業作りをしていくことも必要である。又、小中の連携をふまえると「英語ノート」で扱われている表現や活動はどここの小学校でも扱っておく必要があると考えられる。そのため、「英語ノート」の単元で扱われている表現を扱うことを前提とした。

### ②担任が一人で行えるカリキュラム

ALTの指導時間が増えてきている現状はあるが、まだ多くの学校では担任一人で授業を行わなければならない状況である。また、ALTが派遣されたとしても、担任が中心になり授業を進めていく方向を大切にする必要があるため、基本的には担任一人でも授業を行える設定とした。

### ③1時間の授業の流れ

「英語ノート」の指導資料の流れでは、1時間の流れは必ずしも一定ではない。単元や活動により1時間の流れもそれぞれ違ってきている。現段階で授業を進めていくには1時間の流れがある程度一定である方が望ましいのではないかと考える。

そこで、参考にしたのが、長野県教育委員会から発行されている青本である。青本の「外国語活動」には例として45分の流れが掲載されている。これは、今までセンターの研修でも紹介されてきた例であり、多くの学校でこの流れを参考にして授業が行われている。学習内容により1時間の流れは当然変更する場合もあるが、基本的にはこの流れで45分の授業を構成することとした。

この展開で授業を行った場合には、1つの活動時間がおおよそ10～15分程度になる。各校からの報告からも、1つの活動を10～15分程度として、45分の中にいくつかの活動を組み合わせる方法が、児童の集中力が持続するようである。

### ④学習活動の種類

様々な学習活動が行われるが、「英語ノート」では、およそ次の種類に目標を分類して活動が組み合わせられている。

活動は目標にあったものとし、例えば、聞く活動から口まねする活動、記憶したり自分のものにしたりする活動、自分の意志で選んで発話する活動へと、単元全体の中で流れるように設定する。 ※「小学校外国語活動 研修ガイドブック P45」

#### A. 聞く活動

- 初めて聞く英語の内容を、ジェスチャーや絵、実物などを手がかりにし、推測しながら聞く。
- 英語を聞いて意味が分かり、動作反応で意思表示をする。

#### B. 口まね活動

- 繰り返し聞いて、なんとなく英語の音を口まねし、音に慣れる。

#### C. 記憶し自分のものにする活動

- 記憶に残っている英語を口に出す。記憶に残すために、繰り返し言う。

#### D. 自分の意志で選んで発話する活動

- 自分の意思で英語を話す。英語で質問する。

上記のことを参考として単元の流れとしては、聞く活動→話す活動へどのようにつなげていくかを検討した。

しかし、学習指導要領の目標からも小学校段階では必ずしも発話させることが最終的な目標とはなっていない。「児童に無理をさせない」ということを前提にし、「聞く活動」と「話す活動」のバランスを探っていく必要がある。

以下 教育指導時報 no 7 1 8 『みんなで始める「小学校外国語活動」②』より抜粋

活動全体を氷山に例えてみましょう。海面の下に沈んでいる部分は全体の7～8割ですが、AやBやCの部分がその海面下に沈んでいる部分と考えてよいでしょう。特にAの活動にたっぷり時間をかけてください。A、Bの活動が十分でないうちにCやDの活動を無理にさせると、英語嫌いをつくることになります。

「英語ノート」では、A→B→C→Dという順番に活動が展開されていることが多いですが、決してDの部分が「外国語活動」最終目的ではありません。また、Aから順番にB、Cとブロックを積みかせねるような活動をさせていけば必ずDに到達するというものではありません。色々な活動を子どもたちがスパイラルに体験する中で、はじめはもやもやした映像だったものが、だんだんと輪郭がはっきり見えてくるようになってくる、そんなイメージを持ってください。

以上のことから、十分なインプット活動を行った後にアウトプットの活動に移行していくように計画を立てることを基本とした。また、児童の実態に応じては、必ずしも最終目標を『話すこと』にせず、担任が活動を選択できるようにした方がやりやすいと考えた。

「英語ノート」では1単元が4時間で構成されている。1時間で中心になる活動を2つ行うとすると、4時間で1単元を行なれば全部で15分×8の活動が必要になる。

ただし、実際に授業を行う時にぎっしりと活動を詰め込むと無理が生じる場合が多い。今回は、1単元につき7つの活動を上記のA～Dの4つの活動内容に区分して構成することとした。

## 2 実践研究グループ作成によるカリキュラム

上記のことをふまえて1単元7回分の活動を作成した。単元により回数と活動の種類は変わってくるが、およそ以下の流れを基本とした。同じ活動でも単元の構成によって、聞

く活動になったり，口まねする活動になったりする場合もある。大切なことは，どのような目的でその活動を行うのかを明確にして，児童に活動させることである。

※作成したカリキュラムは，資料参照

回数	活動の種類	活動例
1回目	A 聞く活動	・表現の導入・「英語ノート」のLet's Listenの活動
		・ヒントゲーム・ミッシングゲーム
2回目	A 聞く活動	・キーワードゲーム・教師が児童に質問する。
		・カルタ（教師の発話を聞いてとることが中心）
3回目	B 口まねする活動	・キーワードゲーム・チャンツ・カルタ
		・歌
4回目	B 口まねする活動	・ビンゴゲーム
		・ヒントカルタ
5回目	C 記憶し自分のものにする活動	・チェーンゲーム
6回目	C 記憶し自分のものにする活動	・ラインゲーム
	D 自分の意思で選んで発話する活動	・3ヒントゲーム（自分たちでヒントを出す）
7回目	D 自分の意思で選んで発話する活動	・インタビュー活動・ショウ&テル

実際の授業では，上記の流れに沿って作られた活動内容を担任が選択して1時間の授業に組み込んでいく必要がある。どのように構成していくかは，学校体制により変わる。

### 3 カリキュラム実践の方法

今年度の実践研究グループでは，各単元で7つの15分程度の活動を作成し，それを受講者の学校の実態に合わせて実践にとりくんだ。

#### ①外国語活動の実施が始まったばかりの学校

1時間に1つの活動を入れ，残りの時間はDVD教材等を視聴する。1つの単元は，およそ7回の授業で終了する。

#### ②1単元4時間程度で外国語活動をする学校

1時間に2つの活動を入れる。1つの単元は，およそ4回の授業で終了する。

#### ①外国語活動の実施が始まったばかりの学校

1時間に1つの活動を入れ，残りの時間はDVD教材等を視聴する。1つの単元は，およそ7回の授業で終了する。

45分間授業を計画的に進めていくためには教師も児童も無理をしないことが大切である。1時間に2つの活動を入れると，慣れるまではどうしても1つ目の活動に時間がかかってしまい，2つ目の活動がおろそかになりがちになる。スパイラルで学習を積み重ねていくことを前提とすると，児童の学習の積み重ねが十分でないまま次の活動に移ってしまうことになり，結果として児童に無理をさせることになる。そのために，慣れるまで

は活動を1つに絞る。残った時間は、えいごりあん等の視聴覚教材を見せる。という流れで授業を構成する。

活動によっては、1時間に2つ入れたり、後半の「話す活動」は行わなかったりと、指導者や学習者の実態に応じて授業を構成する。これから外国語活動を始めるという学校にとっては、無理なく取り組める方法であると考えられる。

#### 【1時間の流れ】

青本掲載の1時間の流れを基本とする。ただし、学習内容によって変わる。

- ①ウォームアップ
- ②復習等
- ③活動1
- ④活動2 (DVD等の視聴覚教材を使用する。若しくは行わない。)
- ⑥振り返り

#### 【単元の流れ】

活動は本研究グループで作成した7回の計画の中から、児童の実態に合わせて活動を選択して実施する。そのため、必ずしも1単元を7時間扱いするわけではない。児童も教師も英語活動に慣れていない状態であれば、授業の最終場面で児童に無理して発話をさせる必要はない。

### ②1単元4時間程度で外国語活動をする学校

1時間に2つの活動を入れる。1つの単元は、およそ4回の授業で終了する。もっとも一般的な流れであり、「英語ノート」の学習の流れに近い。

しかし、4回の授業で「聞く活動」→「話す活動」に展開したとしても、児童にとっては「話す活動」が負担になる場合があると考えられる。児童の実態に応じてどの程度まで「話す活動」を取り入れるかを考慮する必要がある。

#### 【1時間の流れ】

青本掲載の1時間の流れを基本とする。ただし、学習内容によって、変わる。

- ①ウォームアップ
- ②復習等
- ③活動1
- ④活動2 又は、国際理解に関わる活動
- ⑤振り返り

#### 【単元の流れ】

本研究グループで作成した1単元で7つの活動を行う。1単元の時数は、4～5時間程度。1時間に2つの活動を取り入れ、活動によっては1時間に1つの活動とし、1つの活動時間を長くする等とした。

単元の最後に全員の児童に十分なコミュニケーション活動をさせようとする、教師も無理をさせがちになってしまう。そこで、児童の実態に応じて活動を減らす等の調整が必要である。